

平成 26 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

生徒が自律しまた安心して暮らすことのできる学校づくりと、社会で自立し社会に貢献できる人材の育成

2 中期的目標

1 セーフティネットの高校としての、外部から見てわかりやすいコンセプトをもった学校づくり

(1) 生徒が安心して暮らすことのできる学校づくり

ア 個々の生徒に応じたきめ細かな指導

- ・障がいのある生徒など配慮を要する生徒に対する組織的支援
- ・配慮を要する中学3年生に関する中学校との連携充実
- * 配慮を要する中学3年生について、入学前からの連携(平成25年度8名)を毎年2名ずつ増し、28年度には15名とする。

イ いかなるいじめも決して許さない・見逃さない指導と、生徒の実態に合わせた生徒指導

- ・生徒の実態に即し、生徒指導内規とその運用についての改善を図る。
- * 停学人数(平成25年度は停学人数が前年度より36.7%減少)を26年度以降毎年10%ずつ減少させる。総停学日数(25年度は63.7%減少)を26年度以降毎年10%ずつ減少させる。

- ・不登校・いじめられ経験をもつ生徒が登校改善できるよう図る。

- * 新入生の登校改善状況(平成25年度入学生は、中学校以前に不登校・いじめられ経験をもつ生徒のうち、86%が改善)を維持する。

ウ 部活動の活性化

- ・入部を促す取組みの継続と強化

- ・新入生体験入部を充実させる。また部活動紹介を全校生徒対象に年2回実施する。

- * 平成26年度は耐震工事によりグラウンド面積の6割が使用不可となるが、部活動加入率(平成25年度52.6%)は減少させない。

- * 保護者対象学校教育自己診断で、学校に対する満足度(平成25年度91.3%、但し、「わからない」を母数から除す)を26年度は93%としそれを維持する。

- * 生徒対象学校教育自己診断で、成城高校に「入学してよかったと思う」回答(平成25年度は「楽しいと思う」67.5%、但し、「どちらともいえない」を母数から除す)を26年度以降毎年3%上昇させ、28年度に77%にする。

- * 中退率(平成25年度は前年度より3.82%減の4.5%)を26年度は3.5%とし、28年度に大阪府平均(平成24年度1.8%)にする。

2 生徒が将来に展望をもてる教育を進める学校づくり

(1) 学力の充実と希望進路の実現

ア 基礎基本の定着

- ・1年生「産業社会と人間」を活用した「学び直し」学習を平成26年度新入生でも継続するとともに、2年生「総合的な学習の時間」での国語の取組みを充実させる。

- ・授業規律の徹底(懲戒に結び付けた強力な指導)

- ・先進校視察による授業力向上(他校訪問5名以上)

- * 生徒対象学校教育自己診断で、「授業がわかりやすい」回答(平成25年度は「授業がわかりやすく楽しい」48.8%、但し、「どちらともいえない」を母数から除す)を26年度以降毎年5%ずつ上昇させ、28年度には65%にする。

イ 教職経験の少ない教員の教育力向上

- ・「新人育成プロジェクト」による組織的指導、ミドルリーダーによる指導強化、学校説明会参加(のべ20名)、地域での中学生進路行事参加(2回)

- * 経験の少ない教員による相互授業見学・相互検証(平成25年度は一人平均約3回)維持。

ウ 遅刻減の取組みの継続・強化

- ・遅刻減に向けた組織的な取組みの継続

- * 遅刻率(平成25年度は前年度に比べ39.9%減少)を26年度は前年度比30%減少させ、27年度以降は毎年10%ずつ減少させる。また、欠席率・早退率(平成25年度は各21.7%減・24.1%減)を悪化させず維持する。

エ 進路指導の強化

- ・進学指導の強化

- * 3年生に少人数の特別進学クラスを1クラス設置し、進学に特化した指導を進め、指定校推薦入試以外の大学合格者数の2割増と、国公立大学合格、及び難易度の高い私立大学の合格を図る。

- * 進路未決定卒業生(平成25年度は11.2%減少し、4.2%)を26年度7%にする。

- ・電気工事士資格取得(平成25年度2名)4名をめざし、27年度以降は毎年2名ずつ増加させる。

(2) 国際交流の継続

- ・韓国姉妹校(セヒョン高校)との交流継続、国際交流部の強化

- * インターネット会議等による交流の継続・維持(平成25年度は5回実施)

(3) 学校協議会の活性化

ア 委員の活性化

- ・委員の半数交代と女性委員率5割(平成25年度は女性率14%)

イ 内容充実

- ・保護者・地域住民の傍聴のべ5名(平成25年度0名)

- ・実時間数確保6時間(平成25年度は4.5時間)

3 地域社会の一員として、地域に見守られ地域に貢献できる学校づくり

(1) 地域に見守られ、地域とともに成長する学校づくり

ア 地域の諸機関・事業所との交流・連携

- ・保育園・小学校・中学校・高齢者福祉施設・城東区役所・警察署との交流・連携の継続と強化

- * 野菜工場の生産物の配布(平成25年度3回)を維持する。

イ 地域に向けた「成城カルチャー講座」継続と地域への情報発信強化

- ・「成城カルチャー講座」の継続

- * 受講人数(平成25年度はのべ70名受講)を26年度は40名とし、それを維持する。

- ・文化祭・体育祭の地域等への門戸開放を一層進める。

- * 文化祭・体育祭来場者数(平成25年度は530名)を平成26年度は600名とし、毎年10%ずつ増加させる。

ウ 学校からの発信強化

- ・校長が先頭に立った情報発信の継続

- ・校門横木製掲示板、「成城高校電子掲示板」、成城高校メールマガジン、ホームページ更新、地元自治会掲示板、地域の回覧板回数活用充実

- * 活用・更新の合計回数(平成25年度は合計約370回)を400回とし、それを維持する。

- ・中学校進路指導主事・教員及び塾・予備校関係者対象学校説明会(平成25年度は合計30名)充実させ、参加者を毎年10%ずつ上昇させる。

- ・マスメディアの活用7回(平成25年度は民放での放送2回、読売新聞3回・朝日2回・産経2回・日経1回・大阪日日3回等、マスメディア計13回)

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 26 年 11 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>平成 25 年度と 26 年度は選択肢を変更したため、年度間の比較は不可、また教職員向けは平成 25 年度は実施せず。</p> <p>(25 年度は、生徒向けに「どちらともいえない」、保護者向けに「わからない」を選択肢に入れていたが、この二つの回答率が高く有意性に欠けたため、26 年度は選択肢からはずした。)</p> <p>*保護者回答者率 32%、教職員回答者率 87%</p> <p>[学習指導等]</p> <p>「授業がわかりやすい」と回答した生徒は今年度 52%で昨年度の 28%より 24%増加したが、昨年度は「どちらともいえない」が選択肢の一つとして設定してあったため、単純比較はできない。半数弱の生徒がわかりにくいと思っていることは、「授業に集中している」と回答した生徒が 62%しかいないことと併せて、本校が抱えている最大の課題である。ただ「授業等で PC やプロジェクターを活用している」と回答した生徒 67%、「ICT 機器が授業や日常業務で活用されている」と回答した教職員 82%などから、教職員の一定の工夫のあとが見られる。</p> <p>[生徒指導等]</p> <p>「社会のルールについて学ぶ機会がある」と回答した生徒が 69%、保護者が 89%。ただ、「先生の指導に納得できる」と回答した生徒 39%、本校に入学して良かったと思っている生徒 58%、入学させて良かったと思っている保護者 84%、「カウンセリングマインドを取り入れた指導を行っている」と回答した教員 70%といった回答は、生徒実態の変化に合わせた校則の一部見直しとともに、教職員研修の一層の強化が求められており、早速取組みを開始している。</p> <p>「学校に心を開いて話せる友だちがいる」と回答した生徒は 79%(1 年生は 80%)、また 1 年生は「学校に行くのが楽しい」生徒が 78%あり、1 年生の多くが充実した学校生活を送っていると思われる。通常、中退者の大部分を占める 1 年生の中退者が、大幅減少するものと予測される。</p> <p>進路指導に関しては肯定的な回答が生徒・保護者ともに 73%、教職員 89%で、一定の評価は得ているものの、教職員と生徒・保護者の回答差については今後分析を進める。</p> <p>また、保護者が学校に対して第 1 に求めているのは「進路指導」であり、来年度は進路指導部体制の一層の強化を図りたい。</p> <p>[学校運営]</p> <p>教職員向けでは、「学校の教育活動について、教職員で日常的に話し合っている」88%、「教育活動全般にわたる評価を行い、次年度の計画に生かしている」77%、「この学校は、情報リテラシーや情報モラルを高める教育に取り組んでいる」79%、「教育活動に必要な情報について、保護者への周知に努めている」91%、等肯定的な回答が多かった。しかし、情報発信については肯定的な回答の保護者は 63%であり、HP やメルマガ、及び生徒に持ち帰らせるプリント等を、保護者まで届かせる工夫を図りたい。</p>	<p>0 回目(5/27、「成城高校の在り方懇談会」)</p> <p>* 授業参観及び休憩時間中の生徒の様子も視察</p> <p>○授業改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・箕面市では、毎時間すべての授業でこの時間何をやるかをまず黒板に書いてから始まる。大切なことだと思うので、成城高校でも取り入れてみてはどうか。秋田県の取組みも参考にするとよい。 ・「学びの共同体」を参考に授業改革に取り組んではどうか。 ・朝きちっと食べる、夜しっかり寝るといった、学ぶ環境づくりを進めることが学力向上につながる。学力向上には食育と睡眠指導が必要 <p>○平成 25 年度「学校教育自己診断」結果に基づいて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケートで様々な数値があがってくるが、ちょっとした設問の仕方等で、全く違った数値になることも多い。数値だけを鵜呑みにしないほうがいい。 <p>○生徒指導等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毅然とした生徒指導が効果をあげ、非常に落ち着いた学校になっていることがよくわかった。先生方も生徒の模範となるようマナーとルールをきちっと守っておられることと思う。生徒に強く求める分、教職員の日常的な言動には他校以上のきちんとした姿勢が重要 ・成城高校の生徒は非常に可愛く感じる。もっといい学校にしていけるために将来の夢に向かってどのように生徒のモチベーションを上げるか、しっかり取り組んでもらいたい。 <p>○入試制度への要望</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度の高校入試では、私学専願で公立高校を受験しない者や公立の後期は受験するが前期は受験しない者もあった。前期の倍率が高くなりすぎているし、試し受験と思って前期を受験しても、不合格になると落ち込む者も少なくない。入試制度改善を高校からも府教育委員会に働きかけてもらいたい。 <p>第 1 回(7/11)</p> <p>○平成 25 年度「学校経営計画・評価」及び 26 年度「学校経営計画」</p> <p>ア 授業力向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究授業の実施例として、学年別に実施し他学年は休講として全教員が研究授業に参加、ワークショップ形式で研究協議を行うという方法もある。 ・一本調子では飽きる。声の大きさ、速さに変化をつける。 ・支援学校の工夫を取り入れる。(見通しを書く、メリハリ、短時間ごとの休憩) ・授業中に核になる子と視線を合わせ集中させると、周囲の子も集中する。 ・声掛け、子供の発言や日常生活の雑談を授業に発展させる。授業を乱す発言には厳格に対応することも大切 <p>イ 学力向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自主学習を多く取り入れる学校は学力が高い。自習用テーブルの整備や自習場所を作ると自習しやすい。 ・秋田県を視察してみてもどうか。体育でもホワイトボードを使用している。 ・小学生に新聞の 4 こま漫画を毎日文章で表現させ、1 年後学力のあがる実践がある。 ・授業の感想を毎回書かせることで効果があることもあり。 ・卒業生による進路を語る会を実施することで将来への展望を与える。 <p>○情報発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昔の情報のまま、いまだに成城はやんちゃな学校と思っている中学校もある。 ・「成城新聞」を楽しみにしている住民もいる。発行回数を増やし町内での回覧を継続して欲しい。学校行事をもっと回覧板・掲示板等で広報し地域住民参加を増やすべき。 ・商店街等への発信を検討してみても。野菜の朝市、商業系列との連携、生徒にプレゼンさせる等。 ・キャラクター等のイメージやシンボリックなものが必要。校舎の外観が綺麗かどうかも重要 <p>第 2 回(12/16)</p> <p>○26 年度学校教育自己診断結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「授業がわかりやすい」の回答が少ない。授業が大切 ・「校内に気軽に相談できる先生がいる」は、授業についての質問も相談に含まれると思う。授業で質問した時に親切でない先生がいると聞いた。丁寧な対応要す。 ・すべての教員が、授業を「課題・ねらい・まとめ」の形で行っている学校も。効果的である。 ・教員が他の教員の授業を見るのはとても良い。大阪市の中学校ではすべての教員が研究授業を行う。実施後全教員で授業見学班ごとに、よかったこと・悪かったこと、改善点などを付箋に書き、貼り付けて発表する。ワークショップなので、たくさんの意見が出る。 ・寝ている生徒もいると思うが、諦めずに指導してもらいたい。 ・わかる授業のために習熟度別授業は有意義だが、A・B・Cの習熟度別だと C 講座の生徒はのんびりしてしまう。そこで A・B・B として、B と C を合わせて半分ずつにして班分けする方法もある。また、国語は習熟度ではなく単純に 3 展開にするのがよいようだ。 ・ついてこれない生徒の面倒をみないと、生活指導、進路指導が大変になる。 ・能力は高いが字が読めない障がいをもつ子どもの体験を聞いたことがある。教員が問題を読んでやると問題を解くことができる。しかし、他の子どもから「ひいきだ」と言われ、本人のプライドが傷ついたと聞いた。注意が必要 ・箕面市の小・中学校では、全クラスに電子黒板・全生徒にタブレットを導入している。若手教員はすぐに ICT を使いこなした。ベテラン教員も慣れてくれば使える。児童・生徒は大人が思っているよりよく使いこなす。ビジュアルで入るので課題のある子どもにもよい。 ・アプリケーションをどれくらい使えるかで変わってくる。東南アジアのタイでは、全小・中学校でタブレットを導入している。教員が開発したアプリケーションを国が買い取り、全学校で

使用している。

- ・特別支援学校や小中学校のアプリは充実している。
- ・大阪市立旭陽中学校がICTについての指定校である。視察するとよい。
- ・理科は映像を見せると効果がある。実験のデータ処理にICTを活用し考察の時間を多くとっている場合が多いが、中学生には考察よりもグラフを書かすことが重要である。自分で手を動かして考える力をつけさせる必要がある。
- ・ICTは道具であり万能ではない。それをどう使うか、授業の構成が大事。ICTで授業をするためには準備（ネタ集めと構成）が必要。授業が上手な教員はICTを使っても使わなくても上手である。その逆もいえる。

○エンパワメントスクール

- ・先行してエンパワになる3校は私の中学校からは遠い。成城高校は近いのでありがたい。成城高校は学習環境が整い、「お得な学校」と認識している。

○教職員の服装・挨拶

- ・教員は服装についても考えるべきである。生徒にとって先生が理想像である。
- ・教員についてもTPOが必要である。
- ・生徒はまだ子供であり、生徒は禁止なのに先生はなぜ良いのかという思いもある。
- ・私学の教員はスーツにネクタイをしている。塾も同様である。
- ・高校より中学校の教員の方が服装がだらしない。
- ・教員が外部の人に会った時には挨拶するようにしてほしい。
- ・市役所の職員は市民サービスの一環として挨拶するように言っている。先生は学校の顔である。先生が一丸となって挨拶をするとイメージアップにつながる。

○保護者の行事参加

- ・LD学会に参加し舞鶴白糸中学の発表を聞いた。白糸中学では学校行事の参加者が低かったのだが、カードを作って学校の行事に参加すれば印を押し、一定たまれば景品（行事のDVD）を渡すようにしたら学校行事への参加者が増えた。保護者が来校することで教員が変わった。またグループ学習などに取り組み、学校が劇的に変わったと報告があった。参考にされるとよい。

第3回(1/23)

○生徒の出欠状況

- ・IC化された生徒証をスリットすれば、自分の現在の欠席・遅刻状況がわかる高校もある。
- ・始業前学習の参加率が高いが、教員の朝礼等はどうしているか？

○アルバイト

- ・アルバイト制限について、どのような議論をしているか。大学生がインターンシップに来て、挨拶・電話対応から教えないといけない。アルバイトをさせて社会性を身に付ける必要があるのではないか。
- ・保護者と協議し、家庭状況や社会経験のためなどアルバイトの目的をしっかりとさせる。

○進路指導

- ・進路に関して学校が得た情報を保護者へ。例えば、福祉・保育など社会が必要としている職業の紹介や職場で必要とされる資格（ヘルパー2級、自動車等）を、めざさせてはどうか。
- ・資格等は、生徒全員が受験しているか。
- ・中学校では職業体験を実施している。
- ・卒業生が在校生に進路等で話させるとよい。青年海外協力隊等の経験を話に来てもらうのは。

○社会貢献

- ・社会貢献の人材育成はむつかしい
- ・地域活動協議会 新年もちつき大会等にも参加させてもらいたい。
- ・社会貢献のポイント制導入を検討してみてもどうか。

○部活動の活性化

- ・中学校は体験入部を1週間実施、生徒の声を聞いてみるのも大切

○学校環境の整備

- ・私の中学校では、職員会議の後、10～15分職員室の掃除をしている。
- ・小学校の先生は、児童たちといっしょに掃除をしている。
- ・学校（教室）の環境を整えば、生徒は落ち着く
- ・玄関前の掃除が十分か。また、花壇が平面的になっているので立体的にするとよい。
- ・視覚支援、聴覚支援について。校則を短くわかりやすく、おもな例を公開し、文章は見づらいので、トピックだけでもよい。

○広報

- ・玄関にある電子掲示板の字が小さくて外から見にくい、また位置が高すぎるので調整が必要。
- ・校長室ドアにたくさん掲示している「成城ニュース」を、玄関付近にボードを設置して貼りだせばよい。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 セーフティネットの高校として、わかりやすいコンセプトをもった学校づくり	(1) 生徒が自律し安心して暮らすことのできる学校づくり ア 個々の生徒に応じたきめ細かな指導 イ いかなるいじめも決して許さない・見逃さない指導と、生徒の実態に即した生徒指導 ウ 部活動活性化	ア・障がいのある生徒など配慮を要する生徒に対する組織的支援 ・配慮を要する中学3年生に関する中学校との連携充実 イ・生徒の実態に即した生徒指導内規とその運用についての改善を図る。 ・中学校以前に不登校・いじめられ経験をもつ生徒が登校改善できるよう、いじめを許さない・見逃さない姿勢を継続、中学校・塾への発信を強化、在校生には校長が先頭に立った訴え継続 ウ・入部を促す取組みの継続と強化のために、部活動紹介の内容を充実させ、全学年対象に2回実施、また新入生の体験入部を強化する。	ア・配慮を要する中学3年生に関する本校入学前からの連携10名(平成25年度8名) イ・停学人数を10%減(平成25年度は停学人数が前年度より36.7%減)。総停学日数を10%減(25年度63.6%減) ・中学校以前に不登校・いじめられ経験をもつ新入生の登校改善率を維持(平成25年度新入生は、86%が改善) ウ・部活動加入率維持(平成25年度52.6%) ・生徒対象学校教育自己診断で、成城高校に「入学してよかったと思う」生徒の回答率70%(平成25年度は「楽しいと思う」67.5%、但し、「どちらともいえない」を母数から除す) ・保護者対象学校教育自己診断で、学校に対する満足度を93%(平成25年度91.3%、但し、「わからない」を母数から除す) ・中退率(平成25年度は前年度比3.82%減の4.5%)を26年度は3.5%とする。	ア・配慮を要する中学3年生に関する本校入学前からの連携14名(◎)、来年度は19名をめざす。 イ・停学人数10%減見込・総停学日数15%減見込(◎)、来年度は各10%減をめざす。 ・中学校以前に不登校・いじめられ経験をもつ新入生の登校改善率89%(○)、来年度も維持できるよう努める。 ウ・部活動加入率56.6%(◎)、耐震工事・建て替え工事が平成30年度まで継続しグラウンドの6割が使用不可となるが、来年度以降も入部率を維持するため工夫を行う。 ・生徒対象学校教育自己診断で、「成城高校に入学してよかったと思う生徒の回答率58%(△) 来年度は各65%をめざす。 ・保護者対象学校教育自己診断で、学校満足度84%(△)、来年度は各86%をめざす。生徒・保護者ともに、不満は生徒指導の厳しさ等に主因があると思われる。来年度も生徒実態の変化に合わせた校則緩和を引き続き進める。 ・中退率2.7%(○)、在籍のみの生徒や、中学校までの不登校経験生徒を積極的に受け入れるためこれ以上の減少は困難
2 生徒が将来に展望をもてる教育を進める学校づくり	(1) 学力の充実と希望進路の実現 ア 基礎基本の定着 イ 教職経験の浅い教員の教育力向上 ウ 遅刻減の取組み継続 エ 進路指導強化	ア・1年生「産業社会と人間」を活用した「学び直し」学習を平成26年度新入生でも継続するとともに、2年生「総合的な学習の時間」で国語の取組みを充実させる。 ・授業規律の徹底(懲戒に結び付けた強力な指導) イ・「新人育成プロジェクト」による組織的指導、ミドルリーダーによる指導強化 ・経験の浅い教員による相互授業見学・相互検証の制度化 ・学校説明会参加、地域の中学生進路行事参加 ウ・遅刻減に向けた組織的な取組みの継続・強化により、遅刻率の改善と欠席率・早退率を悪化させない取り組みを進める。 エ・進学保障強化のため、3年生に少人数の特別進学クラスを1クラス設置し、進学に特化した指導を進める。 ・電気工事士資格取得者増	ア・生徒対象学校教育自己診断で、「授業がわかりやすい」54%(平成25年度は「授業がわかりやすく楽しい」48.8%、但し「どちらともいえない」を母数から除す) イ・経験の少ない教員による相互授業見学・相互検証一人平均3回を維持(平成25年度3回) ・学校説明会参加(のべ20名)、地域の中学生進路行事参加(2回) ウ・遅刻率を前年度比30%減少(平成25年度は前年度比39.9%減)、欠席率・退退率維持(平成25年度は前年度に比べ欠席21.7%減、早退24.1%減) エ・指定校推薦入試以外での大学入学者数2割増、国公立大学合格・難度の高い私立大学合格 進路未決定卒業生率7%(平成25年度は11.2%) ・資格取得4名(平成25年度2名)	ア・生徒対象学校教育自己診断で、「授業がわかりやすい」52%(○)、来年度はグループ学習の強化、英語の抜本的授業改革等を行い、来年度は57%をめざす。 イ・経験の少ない教員による相互授業見学・相互検証一人平均2回(△)、来年度は経験の少ない教員だけでなく、他の教員にも実施させ50講座の校内公開授業を実施 ・学校説明会の本校教員参加は6回分で28名2回分が未実施だが、8回でのべ37名の見込み(◎)、地域の中学生進路行事参加4回(◎) ウ・遅刻率42%減見込◎、欠席率維持見込○・早退率1%増見込○、来年度は遅刻5%減、長期欠席者を除いた欠席率10%減をめざす。 エ・指定校推薦入試以外での大学入学者数未確定。国公立大学1名合格確実(○)・難度の高い私立大学2名合格(○)、来年度は今年度の数値を維持する。 進路未決定卒業生率2.1%(◎) 来年度は5.0%をめざす。 ・電気工事士資格取得2名(△) 来年度は、より積極的な働きかけを教員が行うことで受験者数を増やし6名合格をめざす。

府立成城高等学校

	<p>(2) 国際交流の継続</p> <p>(3) 学校協議会の活性化 ア 委員の活性化 イ 内容充実</p>	<p>(2) ・韓国姉妹校(セヒョン高校)との交流継続、国際交流部の強化</p> <p>(3) ア・委員構成刷新と女性委員率増 イ・保護者・地域住民の傍聴促進 ・実時間数確保</p>	<p>(2) ・インターネット会議等による交流の継続維持(平成 25 年度 5 回)</p> <p>(3) ア・委員の半数交代と女性委員率 5 割(平成 25 年度は女性率 14%、すでに達成・評価なし) イ・保護者・地域住民の傍聴のべ 5 名(平成 25 年度 0 名) ・実時間数 6 時間(平成 25 年度約 4.5 時間)</p>	<p>(2) ・インターネット会議等による交流の継続 5 回(○)</p> <p>(3) ア・委員の 66.7%交代と女性委員率 83.3%をすでに 4 月に達成しているため評価なし。 イ・保護者・地域住民の傍聴のべ 2 名(△) ・実時間数 約 8.5 時間(◎)</p>
<p>3 貢献できる学校づくり として、 地域に見守られ 地域に</p>	<p>(1) 地域に見守られ、地域とともに成長する学校づくり ア 地域の諸機関・事業所との交流・連携 イ 地域に向けた「成城カルチャー講座」継続と地域への情報発信強化 ウ 学校からの発信強化</p>	<p>ア・保育園・小学校・中学校・高齢者福祉施設・城東区役所・警察署との交流・連携の継続と強化 イ・「成城カルチャー講座」継続 ・文化祭・体育祭の地域等への門戸開放を一層進める。 ウ 学校からの発信強化 ・校長が先頭に立った情報発信の継続 ・校門横木製掲示板、「成城高校電子掲示板」、成城高校メールマガジン、ホームページ更新、地元自治会掲示板、地域の回覧板回数活用充実 ・中学校進路指導主事・教員及び塾・予備校関係者対象学校説明会 ・マスメディアの活用</p>	<p>ア・野菜工場での生産物の配布を 4 回(平成 25 年度 3 回) イ・受講人数のべ 40 名(平成 25 年度はのべ 70 名) ・文化祭・体育祭来場者数 600 名 ウ・活用・更新の合計回数を 400 回とする。(平成 25 年度合計約 370 回) ・マスメディアの活用 7 回(平成 25 年度は 13 回)</p>	<p>ア・野菜工場生産物の配布 2 回(△) イ・「成城カルチャー講座」受講人数 13 名(△) 「成城カルチャー講座」は 25 年度の開講講座数の 1/6 に縮小した。来年度は参加者 20 名をめざす。地域連携は、出前授業・生産物提供・地域行事への参画・学校行事への招待等々による教職員と生徒の負担が限界に達しているため、来年度は拡大しない。 ・文化祭・体育祭来場者数約 518 名(△)、体育祭は雨天順延のため保護者が休暇を取れず、参加者 100 名に留まった。来年度は文化祭・体育祭来場者計 600 名をめざす。 ウ・活用・更新の合計回数約 445 回以上(○)、来年度は 550 回をめざす。 来年度は HP と「成城新聞」の充実・工夫、「学校案内リーフレット」の充実、広報用「写真集」の創刊作等に取り組む。 ・マスメディアの活用 5 回(NHK 3 回・テレビ大阪 1 回・読売新聞 1 回)(△)</p>